



国際キワニス・アジア・太平洋地域大会（ASPAC 台北大会） 2010.3.12～14

3月12日から14日まで台湾、台北市にて第35回 ASPAC (Asia Pacific Convention) が開催されました。本部発表では1,237名の参加で、うち海外からは188名が参加しました。地元台湾の参加者が圧倒的に多いのは当然でしたが、日本地区からは97名でほかの地区に比べて大勢の参加者でした。

初日の12日はASPAC役員会、2日目の13日は開会式、3日目は総会という3部構成の運営で、2日目の夜のウェルカムパーティ、3日目の参加者全員による晩餐夕食会は大賑わいで、公式の行事関係はおもに当事者だけの参加で行われました。

Paul Palazzoro 国際キワニス会長は挨拶で次のように言っていました。「Make Time to Make a Difference」のスローガンのもとに成功にうめぼれることなく「クラブ新設への努力」、「クラブメンバーの増強」、「ラスベガス大会への積極的参加」、「キワニスファミリー（Key Club, Circle K, Builders Club等）の強化」を中心に世界最大の奉仕機構の一員として頑張ろう。

役員会では次期ASPAC会長としてBette Eavestaff（ニュージーランド南太平洋地区）、国際理事にはDr. Su（台湾地区）が選出され、役員も事前に決められていた人選の決議で、総会では各地区のガバナーから、メンバーの増強、奉仕活動の状況、今後の方向や重点施策についての報告があり、日本地区小池ガバナーからパワー・ポイントを使い具体的な活動や現状の説明がありました。各国それぞれに特色や持ち味があり、興味深いものでした。

台湾は地元開催ということもあり、参加者が圧倒的に多く、クラブ数でも群を抜いており、直近では会員数3万人を目指しているという大変な勢いが伺えました。一時クラブ数が激減し、壊滅状態といわれた韓国も元気を取りもどし、アジアで世界大会をという候補地のひとつに手をあげています。

ASPAC大会の今後の開催は2011年マレーシア（マラッカ）、2012年はスリランカ（コロンボ）、2013年は日本（広島）となっています。

開催期間中、会場内で地区クラブの活動に関するものが展示されており、このOutstanding Service Project Award（奉仕写真展示）では1位マレーシア、2位台湾、3位が日本の順で表彰されました。そしてInternational Friendship Award（大会への参加率）では日本は地元台湾に次いで2位となりました。

3日目の最後を飾る友好晩餐会では参加各国の参加者によるアトラクションで大いに盛り上がりました。日本地区では現地参加した東京キワニスクラブのタン会員による台湾語による親しみのある挨拶とバイオリン演奏により、全員で「さくらさくら」の大合唱。全員が桜の花の小枝を持ち、女性陣は和服、男性陣は法被を着て舞台に華やかさと楽しさが圧倒的に会場のムードを盛り上げました。日本地区ならではのアイデアが大喝采で、Outstanding Performance Awardの最優秀賞を受賞しました。（今年の世界大会はラスベガスで6月24日～6月27日）

（事務局長 中川 惇）



公益財団法人 キワニス日本財団の認定

2010.3.19

キワニス日本地区の永年の宿願であった寄付金優遇税制適用の地位が、今回、公益認定等委員会から初めて認定されました。

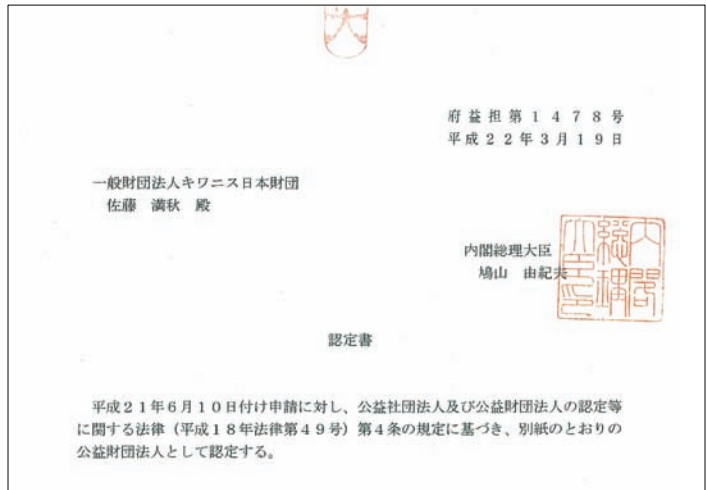
キワニス日本地区では、我々の活動の主財源が、会員の会費と会員からの寄付で成り立っておりますので、数十年前から、特定公益増進法人として寄付金について所得税等からの控除ができる団体としての認定を要望して参りました。しかし、今回の公益法人制度改正の前までは、そのために、旧大蔵省から財団として基本財産1億円の用意を求められ、キワニス日本地区にとっては到底不可能な状況にありました。今回の公益法人制度改正では300万円以上の基本財産があれば設立できることになり、我々にも道が開けたのです。

昨年1月15日、新公益法人改正三法に基づき一般財団法人キワニス日本財団を設立し、昨年6月10日に公益財団への昇格を申請いたしました。これを受けて厳しい審査がありましたが、やっと去る3月19日に公益財団法人キワニス日本財団（以下KJFという。）が誕生しました。

以下、この新しいKJFの運用について述べたいと思います。



まず、寄付金については、1回の金額が千円以上のもののみを対象とし、各人の年間の寄付総額に対して、翌年の1月に確定申告用の領



収書を各個人宛に各クラブ事務局を通じて送付します。寄付金についての所得からの控除に当たってのすそ切りは平成22年から5千円が2千円に引下げられました。

寄付金は、KJFに対するものであれば、キワニアンのもはもちろんのこと、外部の人や会社のものでも控除の対象になります。

寄付金についての控除は、災害、ヒクソン・フェロー、KJFの基本財産、各クラブが行なう奉仕活動等に対するあらゆる寄付が対象で、所得税、法人税及び相続税について控除することができます。その上、今回の改正により地方税についても公益財団法人には様々な優遇措置が講じられていました。これらの控除額については、最寄りの税務署から詳しくお聞き下さい。

以上の通りですので、21世紀は寄付文化の世紀であるという時代の要請に答えられるよう皆様キワニアンの積極的な寄付をお願いする次第です。また、これにより、KJFの定款の目的に沿った各般に亘る公益事業活動がより強固なものになることを願っております。

写真はKJFの祝賀会で挨拶する佐藤KJF理事長です。

（KJF理事長 佐藤 満秋）

法人会員制度の導入 2010.3.19

法人会員制度が導入され、早くも法人会員第1号が誕生しました。昨年12月にキワニス本部から、会員増強策の一環として法人会員制度の検討の勧めがあり、当クラブでもメンバーシップ委員会でその導入につき検討が行われてきました。

法人会員とは、ある特定の法人につき、その指名する役職員の席を設け、代理出席も可能とするものです。

検討の結果、当クラブに於ける法人会員の取扱いとして ①入会審査は、入会希望法人、その指名する役職員及び代理出席者についてメンバーシップ委員会で行う ②入会金及び年会費は個人会員と同様

に、それぞれ3万円、12万円とする ③会員の交替の場合は、名義書換料として3万円を徴収する ④その他の扱いは、基本的には個人会員に準じて行うこととし、役員会の決議を経て、去る3月19日の臨時総会に於て、法人会員制度の導入が正式に決定されました。

そして、早くも1ヶ月後の4月に法人会員第1号として（株）東芝SCR推進室長 白井純さんが入会されました。白井さんの今後のご活躍に期待すると共に、第2、第3の法人会員の入会が待たれるところでもあります。

（メンバーシップ委員長 日下部 健）

キワニスドール シンポジウム

2010.4.17

2010年4月17日(土)、第2回キワニスドールシンポジウムを、東京浜松町の東芝本社39階の会議室において、東京、横浜、埼玉のキワニスクラブ主催で開催しました。前日の夜から季節はずれの冷え込みと、昭和44年以来の降雪とあいにくのお天気で、お客様が予定通りいらしていただけるのか大変心配しましたが、午前中にはお天気も回復し、昨年を上回る280名の参加でにぎやかにシンポジウムを開始することができました。

今年は、さらに、関西北ディビジョン(神戸、京都、西宮、芦屋の4クラブ)が神戸の甲南大学で、キワニスドールシンポジウムを同時開催し、冒頭の国際キワニス日本地区小池ガバナーのご挨拶と、パネルディスカッションは関西北ディビジョンのキワニスクラブ会員も参加することが出来ました。

プログラムは日本赤十字看護大学の筒井真優美教授による「日本における子どもと家族看護の現状と課題」の講演、入院中や、治療中の子どもたちとあそぶ「おもちゃセラピスト」の荻須洋子様講演、現場でキワニスドールを愛用してくださっている看護師、チャイルドライフ・スペシャリストがパネリストとして、それぞれの現場における事例をパワーポイントを使ってわかりやすく説明してくださいました。会場には、看護関係の参加者も多く、皆さん熱心にメモをとって聴いていらっしゃいました。

シンポジウムの最後は鹿児島から来ていただいた女優たぬきさんによるキワニスドールを題材にした「一人芝居」でした。キワニスドールを受け取った子どもの気持ちを表現したパフォーマンスに参加者一同すっかり引きつけられ、涙を流している方も多く見られました。たぬきさんには、鹿児島クラブのチャーターナイトに引き続き、キワニスドールの一人芝居をお願いしましたが、キワニス



ドールと子どもへの温かい気持ちがしっかりと伝わりました。

約2時間半にわたるシンポジウムが無事終了し、次には会場の設定を変えて、「ドールをつくる会」となりました。日ごろドールを作っている会員やボランティアの皆さんや、キワニスドールを初めて作るという方たちが一堂に会し、皆さんで綿詰め、仕上げのプロセスを体験しました。1時間程度の体験でしたが、約200個の人形が完成しました。ここで作られたドールは、後日、東京キワニスクラブの会員が仕上がり状況を確認し、合格したドールは、さまざまな病院へ巣立っていきました。

おかげさまで、今年のシンポジウムも好評を頂き、参加者からのアンケートでは、ほぼ全員の方が、「良かった」と評価してくださいました。

アンケートでいただいた、参加者の声をご紹介します。

●ドールを使う立場から

1. 小さな子どもに説明することの大切さを知りました。不安な気持ちをかかえている子ども達に癒しをキワニスドールで与えること、そのことが免疫力を上げ、死亡率を下げ治ることに向かっていくことを理解しました。
2. 現場にてキワニスドールが実際にどのように使われているのか、具体的なお話が聞けて良かった。子



ども達にとってドールが母親、友人、様々な役割をもつて、子ども達を支えていることに感激しました。

3. パネルディスカッションで自分の病院以外の病院でのキワニスドールの使い方がわかり非常にためになった。当院でも取り組むことができたと思った。

●ドールを作る立場から

1. 病院で白い天使が使われることが病気の子どもの不安が軽減されている、そのことを知らされ、作っている者の幸せを感じました。「元気になって」と心を込めて作っています。
2. 数年前に読売新聞の記事を読み、一人で参加させていただき、1年に僅かのお人形しかできませんが、少しでもお子さん、病院の方々の援助が出来ればよいと考えています。自分の力が続く限り、継続し

て参ります。今回妹も初参加いたしました、喜んでいきます。

3. 職場でキワニスドールがどのように使われているのか知ることができてよかった。また看護師だけでなく、保育士やチャイルドライフ・スペシャリスト、おもちゃコンサルタントなど多くの人が興味を持ち参加していることはとても子どもの発達に役に立つと思います。これからもキワニスの運動、活動が広がっていくと良いと思いました。

今年も大勢の方にキワニスドールの果たす役割をお伝えすることが出来ました。ご協力いただいた皆様に心から感謝を申しあげたいと思います。

(副会長 堀井 紀壬子)

キワニスドール製作DVDの作成

キワニスドールの製作の準備から完成までの工程をわかりやすく映像で説明したDVDが完成しました。

キワニスドール製作に携わる方々(メンバー、ボランティアなど)およびこれから製作にご協力いただける方々の参考にしていただけるとともに、病院で小児科のお医者さんや看護師さんにキワニスドールがどのように作られているかを理解いただけることにも役立つものと思います。

キワニスドールの紹介から始まり、作業の事前準備、製作の各工程(人形の型取り、ミシン掛け、裁断、表返しとアイロン掛け、綿詰め、かがり縫い)、病院での使われ方も含めて、キワニスドールのことを知る



ことができます。(全体で12分程度)

写真は撮影風景です。(広報委員長 古屋 俊彦)

キワニスドールをつくる会 2010.1.23

皆で楽しくドールを沢山作りました

Kファミリー委員会とボランティア活動委員会の共催で今年最初の「ドールをつくる会」が1月23日(土)田園調布学園で開かれました。当日は快晴にめぐま



れ、朝の10時から学園の生徒37名と指導の間瀬より子先生はじめ11名のキワニス会員とその家族が約二時間かけてドール作りに取り組みました。

はじめにドール・シニアアドバイザーの星会員によるドールの作り方の解説があり、その後でいっせいに作製に入りましたが、多くの生徒たちが経験者だったようで手際よくドールづくりが出来ました。間瀬先生も熱心に指導して下さりキワニスの輪が広がりました。約二時間で50個のドールをみんなで作りましたが、ご褒美のドールピンバッジを手にした嬉しそうな生徒たちの顔がとても印象的でした。これからもっと多くの会員や家族がドールづくりに参加いただき、全国の小児病棟で待っている子ども達にドールが届けられるようにしたいものです。

(Kファミリー委員長 守屋 充男)



「キワニスドールをつくる会」今後の予定

- 6月19日(土) 田園調布学園 10時～12時
- 7月3日(土) 昭和女子大学 13時～15時

新入会員オリエンテーション 2010.3.17

恒例の新入会員オリエンテーション(本年度第1回)が、去る3月17日クラブL西新橋を会場に行われました。

当日は、午後5時半から松本ボランティア委員長の指導の下で、キワニスドールの製作実習に先ず一汗かいた(?)後、美味しいビールで乾杯、即懇親の場へと突入いたしました。

出席者は新入会員7名に北里会長以下、先輩会員が10名。この「オリエンテーション」は入会後間もない会員に出来るだけ多くの先輩会員と親しくなっ

ていただくと共に、「同期生」としての絆も深めていただこうという趣旨で行っているものですが、今回もその成果は十二分に挙がったものと思われま

酒を酌み交し、膝を交えて新旧入り乱れての懇親は、アツという間に盛り上がり、いつ果てるとも知れず、幹事が閉会の宣言をためらう程でした。

次回は、9月に第2回を行う予定ですので、今回参加されなかった方は無論のこと、再度の参加も大歓迎ですので、是非多数ご参加下さい。(メンバーシップ委員長 日下部 健)

靖国神社「慰霊の泉」 献納記念昇殿参拝 2010.3.30

毎年、春の恒例行事として靖国神社「慰霊の泉」献納を記念して昇殿参拝させていただいていますが、今年は3月30日に行われました。

昇殿参拝とはお祓いの後、本殿にて玉串を奉りて親しく参拝させていただくことですが、会員24名が参加し、昇殿参拝を済ませた後に「慰霊の泉」(1967年献納)を訪れました。

写真は「慰霊の泉」前での記念撮影です。(広報委員長 古屋 俊彦)



「慰霊の泉」とは

東京キワニスクラブが1967年4月18日に明治百年を記念して靖国神社に献納した戦没者に水を捧げる母のモニュメントです。

戦跡の石は防衛庁、運輸省、外務省、在日米軍関係機関のご協力によりブーゲンビル島、グアム島、フィリピン各地、硫黄島、沖縄各地などより51個を収集、展示しています。

建設資金総額1,600万円は、主として会員並びに会員所属の会社団体からの寄付金です。

設計は彫刻家井上武吉氏、建設は北野建設(株)が担当しました。

2004年、設立40周年にあたり、新たに会員から寄付を募り、当初の清楚なたたずまいを取り戻すべく大改修工事を行いました。

1990年以降、会員有志が輪番で火曜日と木曜日の朝、清掃活動に当たってききましたが、2009年4月より曜日を定めず、各会員が適宜清掃活動を行っています。

平成 22 年 新年互礼会 2010.1.8

1月8日(金)午後5時から恒例の新春を寿ぐ新年互礼会が銀座7丁目サッポロライオンクラシックホールで開催されました。3連休の直前でしたが、お天気にも恵まれ会員の出足も良く100名の会員とパートナーが笑顔で出席されました。定刻に司会者から開会が告げられ、新入会員3名が紹介されたあと、北里会長からクラブの運営方針にも触れられた新年の挨拶があり、引き続き、寅年の運を切り開くために鏡開きと乾杯に移りました。

使用されたお酒は国立劇場の新春初演で鏡開きに使用される福島の地酒「末廣」の二斗薦被り。「せー

の」の掛け声とともに寅年生まれの会員が息を合わせて打ち下す槌、見事に鏡面が開き、一同の拍手喝采を浴びました。久し振りの樽酒はすこぶる好評で東京キワニスと虎の刻印を打った特製の枡を片手に、樽の周りから離れず何度もお代わりをされる会員も見受けられました。

会のクライマックスは、恒例の新春福引が行われ、見事当たった方々のお顔には満面の笑みがあふれていました。会場のあちこちで「お目度う」の声が響き、談笑の輪が広がって予定の2時間が瞬く間に過ぎました。

(事業企画委員長 吉田 浩二)

平成 22 年ファミリーデー 2010.5.28

5月28日(金)午後5時半から恒例のファミリーデーが東京丸の内の銀行倶楽部で開催されました。

今年は昨年と同様、環境問題をテーマに「グリーンファミリーデー」と銘打ち、会員だけでなくパートナー、家族、知人の方々にも広く参加を募り、楽しんでいただくことをモットーに企画運営され、子ども13名を含む110名の参加を得ることができました。

ファミリーデーのプログラムに先んじてキワニスドールをつくる会を開催し、主に会員のパートナーの参加を得て、キワニスドール・シニアアドバイザーの星会員の指導の下、ドールづくりの基本をしっかりと学んでもらいました。短い時間ではありましたが、27個のドールが出来上がりました。

ファミリーデーは恒例のバザーから始まり、会員からの数百点の出品も主だったものは瞬間に売り切れました。定刻の5時50分に総合司会の近石会員が開会を宣言し、北里会長から開会の挨拶を戴



いた後、ヒクソソフェローの表彰、伊藤副会長による乾杯と進み、しばし食事と懇談のあと、今年のアトラクションは「きいろぐみ」の手話によるミュージカルを楽しみました。団員は、子どもや耳の不自由な方が半数で、手話を交えながら歌い踊るというパフォーマンスに、健常者と変らぬ舞台に皆感激し、簡単な手話も覚え、参加の子どもさんも一緒に踊りだしました。

引き続き今回の目玉の一つであるライブ・オークションが行われました。会員の皆様から出品された貴重なお宝7点をサザビーズばりの蝶ネクタイの司会者が競りに掛けていきます。会場の熱気も高まり、売り上げによる拠金は11万円を越えました。

オークションの後は恒例の福引、会員の皆様からのご協力で電気製品を中心に12点、例年当たる人、全く当たらない人、運不運は世の習いで悲喜こもごも、楽しい3時間があったという間に過ぎました。募金の総額は776千円となり環境問題対策事業に寄付していく予定です。

(事業企画委員長 吉田 浩二)



キワニスドールの使い方

キワニスドール(キワニスクラブで製作した人形)は、病院で幼い患者さんに、これからどんな治療をしていくのか説明するときなどにも使われます。傷口の縫合や、酸素マスクを使用しなければならないような場合、お子さんは驚き緊張して怯えてしまいますが、キワニスドールを使って説明されると、これから受ける治療の内容がよく判って、怖さや不安が軽減されるそうです。

子ども達はキワニスドールに注射をしたり、時にはお医者さん・看護師さんに教えて貰いながら手術の真似をしたりして、キワニスドール相手の「ごっこ」遊びをしています。人形を身代わりにこれから受け

る治療を体験させると、子ども達の恐怖が和らぎ、治療を受け入れやすくなるそうです。

キワニスドールが真っ白でノペラボウなのは、子ども達が好きな色を塗り、顔や洋服を描いて遊ぶことができるように、という工夫をしているからです。大人でも病院は厭な所です。病気の子も達にとってはなお更です。治療は苦痛を伴いますし、見知らぬ環境におかれて子ども達は怯えています。

キワニスドールは、痛くて怖い外来での治療や入院生活を少しでも楽しくできたらという、特別な玩具なのです。

キワニスドールの報道とPR活動

日本地区で初めて、東京キワニスクラブでスタートしたキワニスドールは、2003年にNHKラジオで全国放送され、また雑誌では、日本フィランソロピー協会の機関誌や、2004年には診断と治療社の「チャイルドヘルス」12月号、2006年3月に医療関係専門誌「メディカル朝日」2006年3月号にも掲載されました。

2005年3月20日、「キワニスドール」が読売新聞で紹介され、全国の読者から大きな反響がありました。また、2005年8月27日、キワニスドールが1時間の番組として、BS朝日から全国に放映されました。この放映番組を基に20分間にダイジェストしたPR版を制作し、また、2006年から

2008年まで日本小児科学会や日本小児保健学会でキワニスドールを紹介し、キワニスドールの普及活動に力を入れています。2009年4月4日にはキワニスドールシンポジウムを東芝本社39F会議室にて250名の参加を得て開催、ドールをつくる喜び、看護師、医師、看護教育の立場からドールの使い方の報告があり、現場の生の声を聞く機会を得ました。このときの様子を約16分のダイジェスト版DVDにして、希望の方に差し上げています。キワニスドールの活動は東京キワニスクラブのホームページでも紹介しています。(第2回は、2010年4月17日に開催され、約300名が参加)

<http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Num-Kee-Wan-is”(みんな一緒に集まる)に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約90ヶ国、8,000のクラブ、約60万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立され

ました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、新宿、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、渋谷、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分の順に生まれ、現在28のクラブで会員は約1,600名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

社団法人 東京キワニスクラブ 会長 北里 光司郎 〒101-0047 千代田区内神田 2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>